

( )										
( )										

吉

	<hr/> <p style="text-align: center;">グ 「 「</p> <p style="text-align: center;">う</p>			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ け</li> <li>・ け</li> </ul>			
	<p style="text-align: center;">え</p> <p style="text-align: center;">え</p> <p style="text-align: center;">す え</p>			
	<p>キ 、</p>			
	<p>ッ く</p>			
	く	ぶッ	イ	シ
				ッ

科目名	地域計画学特論	配当年次	1	単位数	2
科目区分	環境経営科目群 (研究科共通)	履修区分	選択必修		
教員名	山口 創	開講区分	後期		
授業の概要	<p><b>キーワード：地域計画、地域資源管理、内発的発展</b></p> <p>本講義では、地域計画の基礎ならびに、地域の持続的な発展を支える現代的な地域資源の利用、管理の在り方について講義する。地域計画学、地域資源管理学に関する文献の輪読や具体的事例を通して、土地利用、水資源の利用、環境保全の基礎について学ぶ。また、各自が関心を持つ地域課題を対象に論文レビューをおこない、その問題の構造や解決に向けた方策について議論する。</p>				
到達目標 (ルーブリック評価項目)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・我が国の地域計画体系および地域計画研究の動向について理解する。</li> <li>・地域が抱える問題の構造や課題解決の方策について考える基礎を身に付ける。</li> </ul>				
授業計画	<p>① オリエンテーション</p> <p>② ～⑤ 地域計画学に関連する文献の輪読をおこない、地域計画の基礎を身につける。具体的には、現在の地域社会が抱える課題を概観し、空間・環境・景観計画、社会・コミュニティ計画、経済計画の内容と方法について学ぶ。また、ヨーロッパを中心に海外における地域計画についても概観する。 輪読に用いる文献は、農村計画学（千賀祐太郎編著）、改定農村計画学（改定農村計画学会編集委員会編 農業土木学会）を予定している。</p> <p>⑥～⑩ 地域資源管理に関連する文献の輪読をおこない、現代的な地域資源の利用、管理の在り方について学ぶ。 具体的には、土地利用、水資源の利用、自然資源の保全、文化・伝統や地域固有知識の継承の実態と管理の方策について学ぶ。また、地域資源を活用したコミュニティビジネスの創出など地域活性化との関連についても学ぶ。 輪読に用いる文献は、地域資源管理学（目瀬守男編著）、農山村再生の実践（小田切徳美編著 農山漁村文化協会）を予定している。</p> <p>⑪～⑮ 各自が関心をもつテーマを選び、論文レビューをおこなう。レビューの内容は授業内で発表し、問題の構造や今後必要とされる施策について議論する。</p>				
評価方法	講義で説明した内容や輪読する文献の内容を正しく理解できているかを重視する。ルーブリック 50%、授業における発表（輪読担当、論文レビュー）50%で評価。				
講義外での学習	事前学習として、輪読部分の読み込みが必要。また、毎回の授業では、担当者に輪読部分もしくは課題論文の発表を課す。				
履修上の注意事項					
教材	<p>◆教科書：農村計画学（千賀祐太郎編著 朝倉書店）、改定農村計画学（改定農村計画学会編集委員会編 農業土木学会）、地域資源管理学（目瀬守男編著 明文書房）、農山村再生の実践（小田切徳美編著 農山漁村文化協会）など。</p> <p>◆参考書：講義中に紹介する。</p>				





	_____			
	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>			







	<hr/>				
<b>fl</b>					
	<p style="text-align: center;">% &amp; ' ( ) * % &amp; HY 8YW] bY cZ h\Y &gt;UdUbYgY GngYa' cZ' AlBq YaYbh ' ' HY 8YW] bY cZ h\Y &gt;UdUbYgY GngYa' cZ' AlBq YaYbh ( ) * +</p>				





	_____			

	_____			



	_____			
	_____			
	_____			
	_____			





	_____			





切		切		
		切		
は	<p style="text-align: center;">ナ</p> <p>き き れ ー は ば。 」 ど れ と  き じでかる。 は る じ。 りは れ  どき。 は に は づどにつで れ  と。 とば。 ががれ る は る は  。 れ に は る 。 は に もは  づ で。 。 ど じ ト イ ガ すで  れ</p>			
レ プル グ	<p>ー れ は じ。 れ どき れ もは に ど  ー す は る ー づ で れ とれ  切 づ 。 は もは 切にるは</p>			
	<p>② キ どじで。 は も ががれ は どど  。 と る づ では  ③ は ど づ で  ④ マ ドケ レ は づ で  ⑤ れ は ど づ で  ⑥ て る づ で  ⑦ は ど づ で  ⑧ か れ 村は ー 村 我 づ で  ⑨ ど づ で  ⑩ どプリ ナー デイ ケ づ で  ⑪ デイ は づ で  ⑫ か れ は づ で  ⑬ は は る づ で  ⑭ ど どは づ で  ⑮ 布ど は づ で  は に は る づ で れ</p>			
	<p>と じ は 。 と じ じで。 切は と  と れがど か  レ プル グ 50 。 とはロマ ド 30 にり 。 か  れトイガ は 20 と れ  レ プル グ れ ー</p>			
とは	<p>じで。 は みと れ づ で  にな。 き れ ど</p>			
は	<p>キ と れはと。 れ ど  ば 。 ロマ ド 切 じでか ど</p>			
村	<p>に づ で れ  」 きびり じ 布 ニガ  2021  」 少 ー 2018  」 じ づ れ 少 2022  は 。 。 と れ</p>			





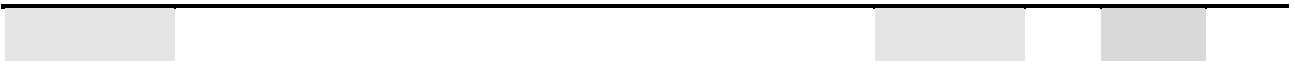






					/
	_____				
%	<ul style="list-style-type: none"> <li>•</li> <li>•</li> </ul>				
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <span>2-</span> <span>2-"</span> </div>				
	645 1/41//1145				

科目名	経営情報システム特論	配当年次	1	単位数	2
科目区分	経営情報科目群	履修区分	選択		
教員名	齊藤 明紀	開講区分	前期		
授業の概要	<p><u>キーワード：IT 調達、情報システム、システム運用</u></p> <p>全ての団体において IT 活用は必須な時代となった。一方 IT システムの調達、活用に失敗して多大な損金を計上する事例は後を絶たない。本講では企業・団体・自治体が IT システムの調達、活用、保守を行う上での課題について論じる。IT システムの調達(購入あるいは設計・製作)、活用、保守、廃棄の各段階について、非 IT 設備と比較しながら概観する。続いて国内外の IT システムに関する失敗事例をいくつか取り上げ、そのシステム構造や背景、失敗の原因などについて論じる。また先進成功事例についても分析する。</p>				
到達目標 (ルーブリック評価項目)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織における情報システムの導入・運用・保守・管理の基礎を理解し、説明できる。</li> <li>・IT 調達における種々の要注意点を知り、説明できる。</li> </ul>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 企業情報システム概説</li> <li>② インターネットの技術特性</li> <li>③ 経営の IT 活用の歴史</li> <li>④ システム化成功事例 1</li> <li>⑤ システム調達</li> <li>⑥ システム活用事例</li> <li>⑦ システムの保守</li> <li>⑧ システムの廃棄とレガシー</li> <li>⑨ 事例研究： 特許庁</li> <li>⑩ 事例研究： みずほ銀行</li> <li>⑪ 事例研究： みずほ銀行</li> <li>⑫ システム化成功事例 2</li> <li>⑬ 更新失敗事例</li> <li>⑭ 政府調達や自治体調達について</li> <li>⑮ 総括</li> </ol>				
評価方法	<p>講義で説明した内容の理解の程度、基礎的知識を正しく理解しているかどうかに重点をおく。</p> <p>ルーブリック (40%) 宿題・レポート(60%)</p> <p>※ルーブリック評価：到達目標に関する理解度、授業参加態度・修学意欲</p>				
講義外での学習	事例調査などの予習と復習が必要である。				
履修上の注意事項	学部カリキュラムの計算機の基礎、情報システム基礎、情報倫理、インターネットを履修済みであることが望ましい。				
教材	<p>◆教科書： なし</p> <p>◆参考書： システム障害はなぜ起きたか~みずほの教訓、日経コンピュータ(編) システム障害はなぜ二度起きたか みずほ、12年の教訓、日経コンピュータ(編) ポストモーテム みずほ銀行システム障害 事後検証報告、日経コンピュータ 連載 動かないコンピュータ、日経コンピュータ</p>				




b

